（様　式）

令和5年度　学校評価書

学校名：　城内中学校グループ（城内中・葵小・伝馬町小）

	大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	3Sの精神を身に付けた児童・生徒 ～心豊かに　たくましく　生きる子～	①　**児童・生徒は、3Sの精神を意識して、学校生活を楽しく送っている。** 「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた回答は、児童生徒、保護者、職員ともに90%以上を超えている。小学校では友達や地域と関わる活動を意識的に取り入れたため、学校生活において学校生活が楽しく充実していると受け止めている。中学校でも生徒の主体性を引き出す継続した取組が生徒の充実感を生み、保護者も生徒の成長を感じていると思われる。	A	①90%以上の子どもが「学校が楽しい」。先生方が子どもたちをよく見て指導してくれているおかげ。 ②地域に出て自分の目で見て気づくことも大切。 低学年からグループワークを進めることでどの子も活躍できる場となっていて、子供の自己肯定感につながっている。 1人での活動も保障されていることもよかった。 総合で地域のことを多く扱っている。今の子供達は地域のことを勉強しているので地域愛が育まれるのではないかと期待している。一方で、端末を使った授業に流れていくのが心配。先生と子どもが一緒になって学習課題・学習問題を追究していくことを大事にしてほしい。 ③社会に出れば厳しいこともあるので、守られた環境の中だけでなく、社会に対応できる力を付けていってほしい。 社会に出ていろいろな人がいることを知り、その人たちとどのように関わっていくか考えることが大切。 ④国際交流はオンラインでも続けていってほしい。小学校時代から国際交流をできることはよいこと。 子どもたち自身が考えて発信する機会（代表委員会など）があることが素晴らしい。 挨拶等学校が大切にしていることが自然と身に付いている。 ⑥小小交流が充実してきた。中学で一緒になる子供たちの交流が充実することはよいこと。支援級同士の交流も進んでいる。 以前は小中で中1ギャップを埋めることが課題だった。近年は小学校同士の関係が強くなってきている。これはよいこと。視野を拡げることにつながる。集団が大きくなることで、いろいろな経験ができる。交流活動が戻ってきているが、コロナ前に戻るのではなく、精選していくとよい。 ⑦情報をどこまでオープンにするか保護者もいろいろな思いがあるので難しい。 地域との関わりについて、「そう思わない」という意見が一定数あるが、学校としては働きかけている。子どもが地域に関わることが少ない。地域の行事に子どもたちを関わらせてあげたい。働き方改革の流れもあるが、先生方にも地域の行事に参加するなど、地域に関わってほしい。 ⑨「人の役に立ちたい」と考えている子どもの割合が多いということは非常に良い。また、その思いを保護者や教職員が見極めている。学校で学んだ正しい知識を家庭に持ち帰って活かせるとよい。	②地域のことを知るにとどまらず、調べたことから子供一人ひとりが地域の課題を見つけ、その課題解決に向け地域の方と共に取り組んでいけるような教育活動を行うことで、より地域への愛着を高めていく。 ③予測困難な社会でも対応できる力を育んでいけるよう、授業で思考力や自己調整力を高めたり、ソーシャルスキルトレーニングを継続することで豊かな社会性を育んでいったりする。 ④学校生活の重点を教師側から示すのではなく、子供たち自身で課題を見つけ、課題解決に向けどのような取り組みを行っていけばよいか考えられる、児童会活動、生徒会活動を推進していく。 ⑤学級での係活動や、委員会活動、生徒会活動の中で一人ひとりの役割を明確にし活躍できる場を設定することで、子供たちの自己肯定感、自己有用感を高めていく。 ⑥来年度も年度当初に交流に向けた年間計画を組む事で、交流だけを目的としたものではなく、教育活動の充実につながるものとなるようにしていく。 ⑦来年度は各校のホームページに「JAT-CS／PTA」のタブを設け、各校の取り組みだけでなく、コミュニティスクールの活動もJAT広報部を中心に広く広報することで地域の方のコミュニティスクールへの関心が高まるようにしていく。 ⑨今年度、検証改善に努めてきた生活、総合的な学習の年間計画を来年度は本格実施することで、より地域とのつながりを深めた教育活動を行っていく。〃
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	研修・学習 ＜JAT研修・学習部＞ 「地域を知り、地域を愛し、地域に貢献する子の育成」学習を通して、社会に積極的にかかわることのできる子	②　**児童・生徒は、友達や地域の人たちと積極的に関わり合いながら学んでいる。** 地域の立地を生かし、関係機関・関連施設を活用した取り組みができた。また、実際に調べ学習に出かけたり、ゲスト・ティーチャーを招いたりして、様々な方の話を聞く機会を設けたことで、地域と関わりながら学習を行う場面を意図的に増やした。学習において友達との関わりについて肯定的な回答の割合が90%を超えている一方で、地域との関わりについての肯定的な回答は比較的数値が低かった。地域と関わっている実感をもつことが、地域に対して興味を深めるきっかけとなることから、関わり方については今後も学習していく必要がある。関わる場を継続して作り、経験を積む機会を確保していきたい。	A		
		生徒指導 ＜JAT生徒指導＞ 自ら判断し、進んで行動する子 (自己肯定感を高め、自分の未来に目	③　**児童・生徒は、相手の立場や気持ちに立った言動ができている。** 児童生徒の肯定的な回答の割合は90%を超えている。その要因を考えてみると、まず相手の立場に立った優しい声かけをJAT3校で年度当初に職員間で確認し、実行に移していることが大きい。感謝の言葉を伝える活動をすることで思いやりの気持ちも高まってきている。また、道徳の授業に各校とも力を入れていることも大きい。思いやりの項目を重点に置くことで成果をあげてきている。反面、まだ心無い一言からトラブルになることも見られるので、日々見守りながら個に寄り添っていきたい。	A		
		特別活動 ＜JAT特別活動＞(キャリア教育) 学級活動、児童・生徒会活動、異学年交流などを通じて、互いのよさを認め、支え合い、自ら行動できる子	④　**児童・生徒は、友達との話し合いを生かして、自ら考え行動できる。** 学校評価アンケートの肯定的な回答の割合は児童生徒、保護者ともに85%以上だった。小学校では低学年で学級の係活動、高学年では係活動に加えて委員会活動に意欲的に取り組む姿が見られた。中学生は学活の時間に目指す授業や行事の姿について話し合い、目指す姿や目標を意識して行事や授業に向かう姿が見られた。	A		
		特別支援 ＜JAT特別支援教育＞ 自己肯定感をもち、自分のことが自分でできる子	⑤　**児童・生徒は、自分にはよいところがあると思っている。** アンケート結果から教師が自分自身を認めてくれていると感じている児童生徒が75%以上いて、多くの教師が児童生徒の頑張りを賞揚し続けたことが子どもたちの自己肯定感に繋がっていると考えられる。他者と比べてしまい自分の良いところに気づきにくい子どもたちには、具体的に良いところを伝え続けていきたい。また、思春期を迎えネガティブな思考になりがちである子どもたちへは、特別支援コーディネーターを中心に養護教諭、訪問教育相談員、SC、SSW、相談員と情報共有し相談することの大切さを伝えてきた。今後も様々な機関と連携しながら、丁寧に見守り支援していきたい。	A		
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	9年間を見通して教職員・児童生徒の交流を行い、職員研修を深め児童生徒理解に努める	⑥　**グループ校同士で連絡を取り合い、組織的な連携体制を構築し交流を深めている。** 年度当初に小小合同学年部会で年間計画を確認したり、すべての学年において小小交流を行ったりした。また小中では、特支学級同士で清掃交流を行ったり、中学校の発表会を小学生が見学したりした。秋には小中特活部が連携して6年生対象の部活動体験会を実施し、児童生徒、職員とも概ね好評であった。オンラインの活用も含め、生活科・総合的な学習の時間などを通して交流の質をさらに高めていきたい。	A		
	【視点4】 地域との連携	社会参画意識を高め、未来を担う資質能力を育成する	⑦　**学校は積極的に情報発信や地域人材の活用をしている。** 情報発信における肯定的な回答の割合は90%を超えている。ホームページの更新を積極的に行ったり、LINEを活用して地域にも情報発信したりした。地域人材については、今年度はより積極的に活用することができた。地域学校活動推進委員を中心に、授業や行事、校内ボランティア活動等で地域人材を紹介していただき、多くの実績をあげることができた。	A		
	学校環境	安心安全な学習環境を整備する	⑧　**学校は、施設や教材が整備点検され、安全で使いやすい状態を保っている。** 保護者、職員ともに肯定的な回答の割合は95%を超えている。毎月、安全点検を実施し、施設設備・備品管理を徹底して行った。修繕が必要な箇所は用務員が迅速に対応したり、教育施設課等への連絡も迅速かつ確実に行ったりした。また、計画的に不用品の処分を行うなど、常時環境整備に努めた。	A		
	グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標			
	よき社会（人・もの・こと）とつながろう ～シチズンシップの精神をそなえた市民の育成～		⑨　**児童・生徒は、地域や社会のために自分ができることを考えている。** 児童生徒の肯定的な回答の割合は90%を超えた。生活科・総合的な学習の時間で地域とつながる活動を増やしていくなかで、児童生徒がそれぞれ地域の課題を見つけ、課題解決に向けた取組を行ったことで地域の一員であるという自覚が高まった。一方、児童生徒に比べ、保護者・職員の肯定的な回答の割合が低いことから、学校で学んだことを家庭や地域でも活かせるようにすることが今後の課題である。	A		

各学校の評価	大項目	中項目	評価指標	自己評価		改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
	重点目標 つながる力を身に付けた子	伝馬の3Aを実践する教育活動	⑩　児童は、基本的な生活習慣を身に付け、学校、地域、家庭で気持ちの良いあいさつができている。 児童会を中心にあいさつ運動が行われ、その運動が各学年、各学級、個人へと広がってきていた。具体的には、代表委員会や児童集会において、あいさつの意義や種類、良いやり方などを提示し、放送ではあいさつの良い子を紹介し、挨拶の輪が広がってきている。	A		

静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）						
	学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	国語、算数ともに全国平均を上回っており、基礎的な学力が身に付いている。国語では「話す・聞く」の領域の平均点が特に高かったが、条件に合わせて自分の考えを書く力に課題がある。今後は様々な場面において条件を付けて自分の考えを書く活動を取り入れていく。 自分で計画を立てて勉強をしている児童が全国平均を上回っており、家庭学習の習慣が身に付いている。総合的な学習で自分で課題を立てて調べ表現することに取り組んでいる児童の割合が全国より低い。今後は、実生活につながっていることや児童が自分事として考えられることを学習で取り上げ、児童が興味関心をもって自ら取り組んでいけるように授業改善を図っていく。	・数値に見えない部分の子供の成長も必要	獲得した知識を生かして自分の考えを作り、それを表現する課題を設定していく。また表現するときに文字数等の条件を設定し、条件に合わせて考えを表現できるようにする。
		中学校	本年度調査があった3教科とも良好な結果だった。国語は、全国の平均を9.2%上回っており、特に「知識・技能」の力を問う問題の正答率が高かった。数学は、全国の平均を15%上回っており、特に「知識・技能」の力を問う問題の正答率が高かった。英語は、全国の平均を12.4%上回っており、特に「知識・技能」の力を問う問題の正答率が高い結果が出た。英語の話すことは、全国の平均を7.6%上回った。毎日2時間以上家庭学習をするという生徒は、全国平均を10%程度上回っており、毎日の学習習慣が各教科の基礎をつくっていると考えられる。		
	体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	握力、50m走、ボール投げの結果で上位層が少ない。この3種目では平均に児童が集中しているが平均以下の児童も他の競技と比較すると多くなっている。上体起こし、反復横跳びでは高学年が高得点を残すことができた。中学年は体力テストの経験が少ないので、平均以下の児童もいるが概ね平均の得点をとれている。今後の課題として、パワーを発揮する運動と器用さや体の使い方を意識した運動を取り入れていく必要がある。	街中の子供たちなので、少しでも体力向上を目指してほしい。	年間を通して体育イベントを位置づけることで、子供たちが運動に親しむ機会を増やすようにする。
		中学校	立ち幅跳び以外は県の平均とほぼ同じか上回っているため、おおむね良好であるといえる。週3時間の保健体育科の授業においては、補強運動として腹筋、腕立て伏せ、背筋（スクワット）を学年に応じて数を変えて行っているが、引き続きこの対応を続けつつ、取組の内容等も確認し、体力の向上を図りたい。また、小学校との連携も大切にしたい。		
	生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		各学校、年度当初にいじめ防止基本方針の見直しを行い、全職員で共通理解した。また、学校ホームページに基本方針を掲載し、保護者への周知も図った。担任による日常的な児童観察・声かけを継続的に行いながら、打ち合わせや会議を通して、児童生徒の情報を共有した。これらの組織的な取組により、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。また、年に3回悩み事アンケートを行い、悩んでいる子に個別相談を行い、アドバイスをしたり早期発見、早期対応したりして、児童生徒が楽しく学校生活を送れるように支援した。		学校全体で子供たちの様子を見守り、情報共有を行うことで、子供たちの少しの変化も見落とすことのないようにし、何か問題が起きたときには迅速に対応できる体制づくりを行っていく。